

4月には、SpaceX社のStarlink衛星以外にめばしい民間衛星の打ち上げがなかった。あえて付け加えるとすれば、4月12日にNRO（National Reconnaissance Office）の軍事偵察衛星「NR0L-192」、4月20日に「NR0L-145」が「Falcon 9」ロケットで打ち上げられている。

当初4月9日に予定されていたアマゾンの低軌道周回衛星「KuiperSat」の打ち上げが、本稿執筆時点ではまだ実施されておらず動向が気かりだ。

新規衛星の発注もSpace Norway（旧Telenor Satellite Services）社による「Thor 8」にとどまった。受注したのは、フランスのタレスアレニアスペース社である。Space Norwayは、現在「Thor-5/6/7」の3機を運用中で「Thor-8」は、同社にとって4機目の現用衛星となる。

衛星そのものではなくサブシステムのみだが、4月1日にCesiumAstro社（本社：テキサス州オースティン）が、台湾のTaiwan Space Agency（TAS）の低軌道周回衛星用Kaバンドペーロードの初契約を締結した。詳しい内容は公表されていないが、TASは2機の衛星を台湾で製作して2027年に打ち上げる計画のようだ。

「NABショー2025」が開催

全米放送事業者協会（NAB）が主催する「NABショー2025」が、今年も4月5日から9日まで米国ラスベガスのラスベガスコンベンションセンター（LVCC）で開催された。さみしい限りだが、衛星通信・衛星放送事業者で出展したのは、Intelsat、SES、Globecastの3社のみであった。

Intelsat社は、衛星と地上系の映像伝送統合サービスを売り込んだ。売り込みのポイントは、静止軌道に展開する50機の衛星、地上系の光ファイバー、世界5か所の

テレポートによるグローバルネットワークである。

SES社は、放送事業者が集結するコンベンションと言うこともありメディアコンテンツ、特にスポーツコンテンツを世界の10億人に提供できる70機の衛星を駆使するマルチディストリビューションネットワークが出来上がっていることをPRした。また、IPベースの放送システムがホットな話題になっていることを想定して、IP伝送ネットワークへの対応も万全な点を強調して注目を集めた。同社の目玉は、東経19.2度、23.5度、28.2度、108度に設置された20のDTHプラットフォームと言える。

ブースでの話題は、2025年1月に東経19.2度でサービスを開始したばかりの「Astra 1P」衛星と2026年に打ち上げ予定の「Astra 1Q」衛星のプレゼンテーションであった。タレス社が製作した「Astra 1P」は、80本のKuバンド中継器を搭載した第3世代の衛星で、500チャンネルのHDTVを放送が可能と言う。

Globecast社は、コンテンツオーナーや放送事業者にハイブリッドクラウドソリューションを提案して関心を呼んだ。オールIPのグローバル統合コネクティビティを実現しているのが強みである。さらに、カリフォルニア州Westlake Villageに新オフィスとVirtualized cloud-based solutionsの設備を完成し、ここを拠点にスポーツイベントに力を入れていくと強調して注目を集めた。

話は変わるが、今年の「NABショー」で「BEST of Show Award」を受賞した栄えある受賞者と注目の製品が発表されたので参考までに紹介する。下記5社の評価のポイントは、言うまでもなくイノベーションである。

Blackmagic Design社の「DaVinci Resolve 20」

Pixboom社の「Spark High Speed Camera」

Motorized Precision社の「EVO」

Falcam社の「Move LightGo」

Core SWX社の「NANO X M-snap Series Battery」

Blackmagic Design社の動画編集ソフト「DaVinci Resolve」は広く業界で知られているが、今回の受賞の対象となった「DaVinci Resolve 20」は、ワークフローに対応するAI Tool、Cut & Edit用のKeyframe EditorとVoice over Palette、Color WarperでのChroma Warpなど最新の機能を搭載した優れものである。

Pixboom社の「Spark」と名付けられたスローモーションカメラには、Super35 BSI Global Shutterが搭載されており、4K 1000fps、2K 1800fpsまでの撮影に対応できるという。

Motorized Precision社の「EVO」は、正確なモーションコントロール用のCinebotでPortable and Affordableがウリである。NABショーの後、3月末から\$9,999で予約注文を受け付ける。

Falcam社の「Move LightGo」は、照明のセットアップのプロセスを容易にするという点が評価された。

プロ向けバッテリー製造業者のCore SWX社は、NANO M-snap Seriesを出展し、キヤノンのCINEMA EOSカメラ、ソニーのPXW、PMW、NEXシリーズカメラなどとの相性の良さが評価された。

「Satellite Mobile Innovation Awards 2025」

衛星移動体通信のユーザーとサービス提



供事業者を代表する非営利団体として 30 年以上の歴史を有する MSUA (Mobile Satellite Users Association) が、今年も 3 月 17 日に年間を通してイノベーション分野で活躍した案件と事業者を発表して、「Satellite Mobile Innovation Awards 2025」を授与した。

まず「Company to Watch」の分野で取り上げられたのは、Space42 社である。2024 年に Bayant と Yahsat の両社が合併して設立されたばかりの会社ではあるが、Bayant 社の AI を駆使する「Smart Mobility ソリューション」と Yahsat の「Mobile Satellite ソリューション」の合体で大成との評価を受けた。

次いで、「Aerospace Mobile Solution」の分野で選ばれたのは、Intelsat 社である。50 機の GEO、648 機の LEO、Light-weight & Aerodynamic Antenna を駆使する航空機向けの「In-Flight-Connectivity (IFC)」サービスが高い評価を受けた。

さらに、「Maritime Mobile Innovation」の分野では、Iridium 社が「Iridium Certus」による極北も含む真の Global Maritime Distress & Safety System に貢献したことが評価された。

「Mobile User Experience Innovation」の分野では、Delta Airlines と Hughes Network Systems が表彰されている。Hughes 社が開発した「Hughes Fusin IFC Solutions」の採用による Ku バンドと Ka バンドを駆使する Dynamic な IFC サービスの実現が高い評価を受けた。

「On-Orbit Connectivity Innovation」のカテゴリーでは、Endeavour Technologies が、「Outstanding Leadership in Use of Mobile Solutions」では、Globalstar 社が表彰された。Endeavour 社が選ばれたのは、「nSpire」と呼ぶ「Real-time connectivity Diagnostics Tool」の開発



写真 1 Space Norway の「Thor-8」衛星は、フランスのタレスアレニアスペース社が製作を請け負っている。(出典：thalesaleniaspace.com)

が業界に貢献したからである。

Globalstar 社は Viasat Enterprise 社と共同で、Inmarsat の L バンドと地上の LTE/4G ネットワークのインテグレーションシステムを活用して、ブラジルの鉄道ネットワーク全体をシームレスに接続することに成功したという具体的な成功事例と、「VLI MULTIMODAL」を駆使して状況監視、運用上のコントロールと安全運行に寄与するリーダーシップをいかに発揮したこと

が評価された。

上記 6 件に加えて、「President's Award for Humanitarian Aid/Disaster Response」賞が ST Engineering iDirect 社に、「Software-Defined Network Innovation」賞が Viasat 社に、「Space Sustainability Innovation」賞が Astroscale 社に授与された。日本から唯一選ばれた Astroscale 社は、宇宙のデブリ(宇宙ゴミ)の除去を目指しており、2024 年 2 月に「ADRAS-J」ミッションで世界最初の「RPO (Ren-

dezvous Proximity Operations)」に成功した実績が認められた。その後、同社は日本の防衛省より機動対応宇宙システム実証機の試作や米国防総省の衛星に宇宙で推進剤を補給する APS-R (Astroscale Prototype Servicer for Refueling) の契約を締結するなど活発な活動が続いている。変わったところでは、エアバスに 100 個以上のドッキングプレートを売り込んでいる。このドッキングプレートは、軌道上での運用サービスを終えた衛星の捕獲を容易にして除去を行うのが目的である。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
日本衛星ビジネス協会 理事

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣

SATCUBE

「驚愕の超小型平面アンテナ！」

スタンダードな SCPC の SNG モデルに加え 2020 年 7 月に新しくスタートしたスカパー J SAT 社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などの HD 映像伝送・災害通信・海外通信・企業の BCP 向けなど幅広く利用可能です。

<SATCUBE アンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cm ビジネスバッグに入ります！
- SCPC モデル・Sat-Q モデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか 1 分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星捕獲は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機持込可能バッテリーで運用可(約 3 時間運用可能)
- 運用中のバッテリー交換可(ホットスワップ対応)
- モバイル中継装置(TVU・Live U・スマテレ等)と連携可

AI Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-55-14
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>